

ビデオを通してというのが大変残念でしたが、皆さんの語りをじっくり拝見し拝聴させて頂きました。正直審査に苦勞をするほど、甲乙つけがたい大変レベルの高い発表ばかりで、大変感動致しました。弁論の部のスピーチの内容も大変充実しており、これだけのものを高校生の段階で身に付けてきたことに敬意を表したいと思います。ここでは審査員の松岡先生・薛先生のご意見も踏まえて、簡略に講評を述べたいと思います。

まず朗読の部については、よくここまで練習をしたなあ、先生方もよく指導されたなあと感じました。中国語の先生のご指導に素直に従って努力されてきた姿が伝わってきて感動致しました。文章を流暢に読むだけでなく、それを自分のものとして感情をこめた朗読ができており、有気、無気の区別や母音 u (u の上にウムラウト) など中国語特有の発音にいくつか問題はありましたが、それらをカバーできる素晴らしい発表を皆さんが聞かせて下さいました。今後ますます正確な発音に心がけ、さらには表現力に磨きをかけて下さい。

弁論の部については、どうしても日本語で考えたことを中国語に訳して話すということになりがちですが、むしろ言いたい気持ちをどう中国語で表現するかを考える姿勢が大事です。例えば、東海支部の藤田紗代さんの発表は、言いたいという気持ちが本当に伝わってくるすばらしい発表でしたが、もう少し簡潔にまとめられればよかったかなと思いますし、先生方もそのような指導をしていただければと思います。異文化体験など実際の体験をもとに、人との繋がりを大切にしたいという姿勢が感じられる発表ばかりで、高校生らしいみずみずしい思いを率直に伝えている点で大変肝銘を受けました。内容としては、中国の方々との交流体験を書かなければいけないという気持ちが生じるのは当然ですが、沖縄支部の山内わかさんが沖縄と本土の文化の違いを述べたように、自分たちの日常生活の中にある文化の違いに目を向けることも大切なことだと思います。また、外国の人たちに向けて日本を発信するという意識を持つことも大事だと思います。今回の発表では、様々な発想の文章があり新鮮でした。

3分という制限時間の中で、内容が盛りだくさんになりすぎると、結局何を言いたいのかわからなくなります。また、自分の考えを外国語で表現しようとする、母語ではぼんやりとしか捉えられていないことをより明確にする必要があります。このような訓練は、自らのコミュニケーション能力を高める上で非常に大切なことだと思います。また実際、多くの外国人や文化背景の異なる人が日本を訪れたり、日本で暮しています。そういうグローバル社会に暮す私たちにとって、相手に自分の意思をはっきりと伝え、相手のことを理解しようとする姿勢はこれからますます必要になってくると思います。そういうことも踏まえると、中国語を母語とする人のスピーチ部門を設けるなど、高中研としても、そろそろ次の段階に進む時期に来ているのではないのでしょうか。

最初にも触れましたように、朗読の部も弁論の部もいずれも本当に甲乙つけがたい発表揃いでありました。事務局から要項通り最優秀1名のみを選ぶように言われましたが、完成度を総合的に審査した結果、今回特別に審査員特別賞を授与することに致しました。最優秀賞と審査員特別賞は、ほとんど差がないものであることを申し添えたいと思います。なお審査員特別賞の副賞として本学の中日大辞典編纂所が長年にわたり編纂・改訂作業を続けている『中日大辞典』第3版を贈呈し、今後のさらなる研鑽を期待したいと思います。

以上を踏まえて、審査結果を発表致します。

弁論の部	最優秀賞	関東支部代表	埼玉県立伊奈学園総合高等学校2年	池澤	恵梨花さん
	審査員特別賞	沖縄支部代表	沖縄県立浦添商業高等学校3年	山内	わかなさん
朗読の部	最優秀賞	関東支部代表	千葉県立成田国際高等学校2年	大竹	絵里さん
	審査員特別賞	関西支部代表	兵庫県立神戸甲北高等学校2年	大柿	美琴さん